

1. 評価結果概要表

確定日 平成19年 10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2270400209
法人名	NPO法人 ヘルスケアサポート協会
事業所名	グループホーム 伊東
所在地 (電話番号)	静岡県伊東市富戸字水口1105-25 0557-51-5575
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年06月27日

【情報提供票より】(平成19年 06月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 01 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	9.1 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり			800 円

(4) 利用者の概要(平成19年 06月 14日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本医院、市立伊東市民病院、ウノ歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったり広々とした居住空間と建物周辺に大きな芝生の庭を持つ自然環境豊かなホームである。開設以降施設長が4回交代し、スタッフの定着も良くなかったが、現施設長に代わり落ち着いた運営が成されるようになってきた。自己評価は全職員で取り組み、外部評価での改善課題にも積極的に取り組み、ホーム内の諸改善は実施され、地域との関係作りにも積極的に取り組み始めた。家族への定期的な近況報告の実施や家族会の開催などの交流は良い。ホーム内の会議体制、情報連絡、介護計画、見直し、重度化指針も有り、記録等的確である。立地的な難しさもあるが、自治会加入などで積極的な地域との交流や、施設の周辺環境を活かした鍵の無いケアや日常の気軽な散歩や外出などの支援が望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された介護の基本にかかわる項目については、殆ど改善されている。地域密着型のホームの新しい機能に対する取り組みは、緒につき始めたところである。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義を理解している。自己評価は職員全員で取り組み、評価の過程を生かして、改善に結びつける熱意が感じられる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、昨年2回開催されたが、暫く途絶えており、サービス向上に活かしているとはいえない。現在開催準備中の運営推進会議を早急に開催し、サービス向上に役立てる必要がある。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、居室担当者が毎月家族に手紙を書いて送付している。毎月の全体と個々の暮らし振りが報告され、家族も手紙を楽しみにしている。苦情処理のホーム内外の体制が、重要事項説明書に明記されており、ご意見箱も設置されている。家族からの意見を本部にも報告し、運営に反映させている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ⑥	町内会には加入しておらず、地域の人たちとの交流は十分とはいえない。利用者の孤立化を避け、非常時の近隣の手助けをお願いするためにも、町内会に加入し、各種の行事への参加を検討する必要がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として ・生活の活性、・本人主体、・社会交流、・個人の尊重 の4つを掲げているが、地域密着型に相応しい見直しが必要である。	○	これからのホームには、「家庭的環境の下」だけでなく、「地域住民との交流の下」が求められている。社会交流の中身について、一歩突っ込んだ見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の基本理念をホーム内に掲示し、管理者・職員ともに理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入しておらず、地域の人たちとの交流は十分とはいえない。	○	利用者の孤立化を避け、非常時の近隣の手助けをお願いするためにも、町内会に加入し、各種の行事への参加を検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解している。自己評価は職員全員で取り組み、評価の過程を生かして、改善に結びつける熱意が感じられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年2回開催されたが、暫く途絶えており、サービス向上に活かしているとはいえない。	○	現在開催準備中の運営推進会議を早急に開催し、サービス向上に役立てていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、よく連携をとりあっているが、サービスの質の向上に結びついてはいえない。	○	先ず運営推進会議の開催を第一義とし、市の担当者とも連携を図り、サービスの質向上に結びつく方を模索願いたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、居室担当者が毎月家族に手紙を書いて送付している。毎月の全体と個々の暮らし振りが報告され、家族も手紙を楽しみにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理のホーム内外の体制が、重要事項説明書に明記されており、ご意見箱も設置されている。家族からの意見を本部にも報告し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の落ち着いた体制になるまで、管理者や職員の異動が多く、家族からも心配の声が寄せられている。	○	定年制の取り止め等により、職員が定着する素地ができているので、馴染みの職員による支援が受けられるよう配慮されたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者など必要最低限の教育はしているが、職員には積極的な研修は行われていない。	○	職員が定着し始めた現在、職員個々のレベルに応じ、社内外の年間研修計画の策定が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の保険部会が主催する小規模施設部会に参加し、各施設をまわり意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、見学会に参加し、他入居者と一緒に食事を取ったり、自然な雰囲気の中で雑談したり、徐々に慣れていただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時のアセスメントに基づき、利用者の特性を把握し、ご本人の言葉に傾聴し、共感し、共に考え、一緒に行動するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人・家族との面談や生活歴から個々の出来ること、得意なこと、希望などを把握し、日々の生活の中で実践できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の全体会議、随時のカンファレンス、毎朝の申し送りなどにて意見交換を行い、家族や関係者の要望も取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと、状況変化に応じて随時のカンファレンスを行い、ケアマネや医者、家族とも話し合い現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助など状況に応じた支援は行われているが、ホームの持つ多機能性を活かした支援はまだ十分とはいえない。	○	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等の柔軟な支援や、利用者と家族が安心して暮らせる為に、ホームの持つ機能を最大限活かせる取り組みに期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からの連絡を得ながら、提携医療機関を中心に適切な医療が受けられるように支援している。月に2回の訪問診療を願ひし、看護師職員による医療支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に本人、家族との話し合いを行い、重度化や終末期に向けた対応を確認している。重度化対応指針も定められており、全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けに留意しており、個人の記録にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が全体の一日のリズムを作り、入浴対応や食事から排泄まで、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって準備から配膳、食事、後片付けを行い、楽しく、おいしい食事ができるよう取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の都合に合わせて対応している。入浴チェック表にて間が開かないような配慮も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳や後片付け等の役割や、庭でのお茶タイムや花摘み、昔の歌やゲームを楽しんだりしながら一人ひとりの役割や、得意なことや楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お花見やドライブ、買い物、外出など支援されているが、日常的な散歩など戸外へ出る機会は十分とは言えない。	○	広い周辺環境の利点を活かして、日常的に散歩や戸外に出かけられる工夫や支援をお願いしたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やベランダ、各ユニット間の出入りは鍵をかけないケアが行われているが、ホーム玄関は鍵が掛けられていた。	○	ホーム周辺の庭やベランダなどの環境を活かした設備的な工夫や、時間帯や職員の見守り方法の徹底などで、利用者の安全を確保しながら、鍵をかけないで自由な暮らしを支援する全職員での取り組みをお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害緊急連絡網を作成し、町内消防署の協力を経て定期的に避難訓練を実施し、安全に避難できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看介護記録に一日の食事摂取量、水分摂取量が記録され、一人ひとりの状態に合わせた栄養・水分摂取が出来るよう支援されている。本部の管理栄養士に栄養バランス、カロリー計算等の協力依頼の取組も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりと落ち着いており、段差も無く、居室にも手すりを取り付けられ高齢者への配慮が伺える。居間には利用者と職員で一緒に作った折り紙細工や行事の写真などが飾られていた。食卓には季節の花も飾られ、オープンキッチンでの食事の支度やおいなども伝わり、心地良い生活感・季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた化粧道具や、写真、位牌、TVなどが持ち込まれていて、個々の利用者が安心して暮らせる環境が整えられている。		